

大阪工場を今春設立

カ
同
二
ク
テ
合

掘削添加材や汚泥固化剤など生産

「土と水」に特化する化学薬品メーカーのテクニカ合同(神戸市、寺尾好太社長)は今春、大阪工場(大阪府東大阪市、〒06・4309・7340)を立ち上げた。主に地下インフラ工事に用いられる掘削添加材や汚泥の固化剤などの粉体・液体製品を製造。工場は本格稼働に入っており、今後は製品生産量のさ

らなる増大を目指す。粉体混合ミキサーや自動充填プラント等の設備を備え、自社製品や

他社製品の生産・小分け等の受託製造(OEM)も可能とする。

大阪工場の敷地面積は723平方メートル。同社初の直営製品工場となり、大阪府門真市にある物流倉庫(敷地面積244平方メートル)や本社、研究室合わせ、原料調達、研究開発、製造、販売まで全て手掛

ける体制を整えた。荷姿は1トンコンテナや一斗缶など大小に対応し、製品によっては1キログラム単位で小分けする。これまで土木関連事業で培ってきた調達・供給網を生かし、産業界分野へも販路を拡大する。

同社製品は、流動性の高い高含水泥土に添加し、混合・攪拌することですぐに自立性をもたせる安全性の高い液体型の固化剤「ハイブリッドポリマーα」や、土木・解体現場や路面補修工事で発生する粉じんの飛散を抑える粉じん防

から好評を得ている。大阪工場の田村一成工場長は、「品質の担保や大手にはない対応力を強みに積極的にOEMを受けていく。また

た現在、工場内作業環境の改善を進め、ヒューマンエラーを起こさないシステムの構築を目指している」と話した。



大阪工場が本格稼働

る粉じん防止剤「ダストシャット」、土砂の付着を防ぐ土砂付着防止剤「マッドスベール」といったラインアップをそろえ、ゼネコンや産廃収集運搬・中間処理業者